

## 地域づくり強化する 集落支援員に委嘱状交付

平成 27 年度市集落支援員委嘱状交付式は 5 月 1 日、市役所で開かれ、13 地域の集落支援員に委嘱状を交付しました。

集落支援員は、総務省が 2008 年に導入した制度で、地域づくりを主体的に担うコミュニティー組織の基盤強化を図るために設置。より活力ある地域づくりに向けて、その活躍が期待されています。

米川地域振興会の及川浩友さんは「どこの地域もそれぞれの良さがある。後の世代にも伝えられるよう、地域の皆さんの声を聞きながら頑張りたい」と抱負を語っていました。



委嘱状交付式後には、オリエンテーションが開かれ、今後の活動について確認しました

## 次代に残したい逸品 観音寺セリの収穫を体験

本市の伝統的な野菜の一つ「観音寺セリ」。この貴重な野菜の収穫を体験しようと 4 月 26 日、迫町北方観音寺の木村壽さん所有のセリ田に、市内外の若者 6 人が訪れました。

当日は、すがすがしい青空が広がる収穫日和。仙台市から参加した千葉ゆかさんは「ぬかるみに足が取られて、収穫は大変でした。ほかのまちでセリを収穫したときは、地盤が乾いていて楽でした。同じセリでも全然違いますね。甘くておいしくここにしかない貴重なものなので、オーナー制度などで休耕地を利用するなど、耕作地が増やせれば」と話していました。



ぬかるみの中、悪戦苦闘しながらの収穫作業。慣れない作業に、田に尻もちをついた人もいました

## 心に寄り添うマンガ 15周年記念 特別企画展

石ノ森章太郎ふるさと記念館で 4 月 11 日から開館 15 周年記念特別企画展として「鉄拳のパラパラマンガの世界展」が開かれています。お笑いタレントの鉄拳さんが、手描きで執筆しているパラパラマンガ。作品は、インターネットで動画配信されるなど、現在世界から注目されています。

5 月 2 日、仙台市から家族で訪れた小林直樹さんは「一枚一枚手書きであることもすごい、ストーリーがすばらしい。人として大切にしなければならない部分が描かれている。胸がぎゅっとつかまれる」と話していました。企画展は 7 月 5 日まで開かれています。



特別企画展には県内外から多数の人が訪れていました。奥のブースでは、動画も上映しています

## 災害時に電力を供給 とめ自然エと協定を締結

災害時における太陽光発電による電力の提供に関する協定式は 4 月 27 日、市役所で開かれました。

今回、市と協定を締結したのは、合同会社とめ自然エネルギーで、地震、風水害やその他の災害が発生し停電した場合、市の要請に基づき太陽光発電設備から電力を使用できるものとなっています。

締結式では布施孝尚市長と濱田総一郎代表社員が協定書に署名。布施市長は「東日本大震災時、市内では 1 週間ほど電力供給が停止し、日常生活に支障をきたした。今回、協定を締結することで市民の安心安全の一助となった」と式辞を述べました。



電力提供の災害時応援協定を結んだ濱田代表社員（右）と布施市長は、がっちり握手を交わしました

## 市民感覚生かす形式 庁舎建設市民会議を開催

第 5 回登米市新庁舎建設市民会議は 5 月 8 日、市役所南方庁舎で開かれ、委員の自主的な運営で「求められる市役所庁舎」について話し合いました。

これまで、通常の会議形式で進めてきましたが、より多く有効な意見を出せるよう、テーマを決めて発言し合うワークショップ形式を取り入れました。

熊谷由紀委員は「これまで、市民感覚を生かした意見が出にくかったことから、形式を変えました。自分たちの意見が出しやすく、他の意見も参考にでき有効な手法」と語っていました。今後は会議の開催周期を短くし、委員が主体となり意見を煮詰めていきます。



より活発に参加者の意見を引き出しやすいワークショップ形式。会議は、堅苦しくなく自由な雰囲気で行われました

## 地域防災拠点が完成 市消防署東出張所が開所

老朽化により新築工事を進めていた市消防署東出張所が完成。開所式は 4 月 30 日、同所で開かれ、市や地域住民など関係者ら約 60 人が出席し完成を祝いました。

東和町錦織小童子地内に完成した新庁舎は、鉄骨一部木造平屋建てで床面積は 497.20 平方メートル。事業費は 2 億 4640 万円です。東和町と中田町を管轄し、署員 15 人が交代で勤務に当たります。

東和町区長会長の佐藤勝衛さんは「これまでの出張所より、有事により早く到着できる範囲が広がり安心できる」と話していました。



完成した新庁舎前で関係者がテープカットし、完成を祝いました